

## 市民アンケート調査

### (1) 実施概要

①目的：現計画に基づいて実施された取組に対する市民意向や、現計画策定時から市民の中心市街地に対する意識や行動がどのように変化したか、また、自身が望む今後の中心市街地のあり方等を把握することを目的とする。

②調査実施日時：平成 26 年 10 月 2 日～平成 26 年 10 月 31 日（督促状送付後の期限）

③調査実施方法：市内在住の 3,000 世帯を無作為抽出し、郵送による配布回収を行った。

### ④回収状況

- ・平成 19 年度よりも回収率が高くなり、中心市街地活性化への批判等も含め、市民の関心が高まった結果と考えられる。
- ・ただし、中心市街地の区域や事業内容を知らない・理解していないといった回答も多く、中心市街地活性化の理念を市民全体で共有することが必要である。

### ＜市民アンケートの回収状況＞

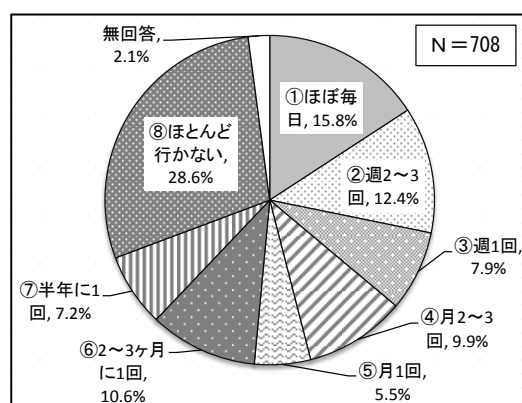
|          | 合 計<br>(10 月 31 日時点) | 合 計<br>(11 月 30 日時点) | (参考)<br>平成 19 年度結果 |
|----------|----------------------|----------------------|--------------------|
| 配布枚数 (枚) | 6,000                | 6,000                | 6,000              |
| 回収枚数 (枚) | 708                  | 786                  | 549                |
| 回収率 (%)  | 11.8                 | 13.1                 | 9.2                |
| 配布世帯数    | 3,000                | 3,000                | 3,000              |
| 回収通数 (通) | 497                  | 552                  | 390                |
| 回収率 (%)  | 16.6                 | 18.4                 | 13.0               |

※結果の中間集計は 10 月 31 日時点の回収数（708 通）について行った。

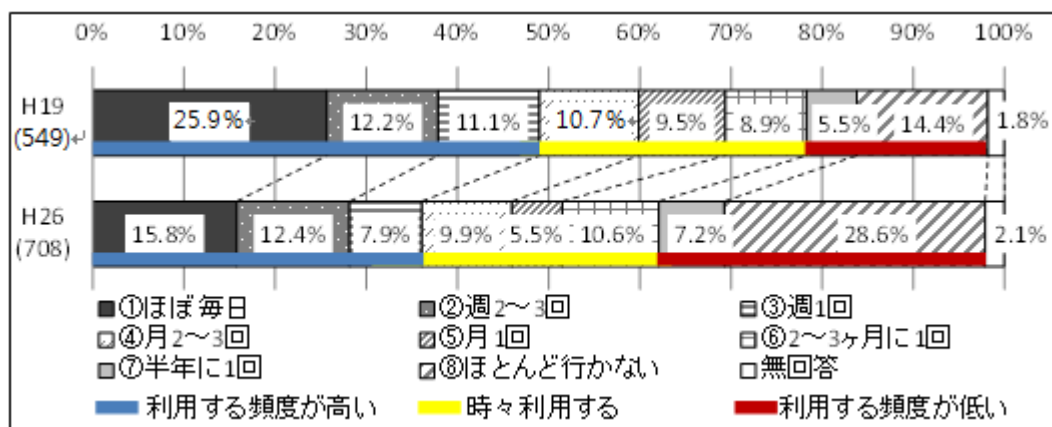
### (2) 結果の概要

#### 1) 利用頻度

- ・「ほとんど行かない」が 28.6%で最も多く、次いで「ほぼ毎日」が 15.8%、「週 2～3 回」が 12.4%の順となっている。
- ・平成 19 年度結果と比較すると、『利用する頻度が高い』割合は、49.2%から 36.1%に 13.1 ポイント減少し、『利用する頻度が低い』割合は 19.9%から 35.8%に 15.9 ポイント増加していることから、中心市街地は市民が日常的に利用する場所ではなくなりつつある状況と予想される。

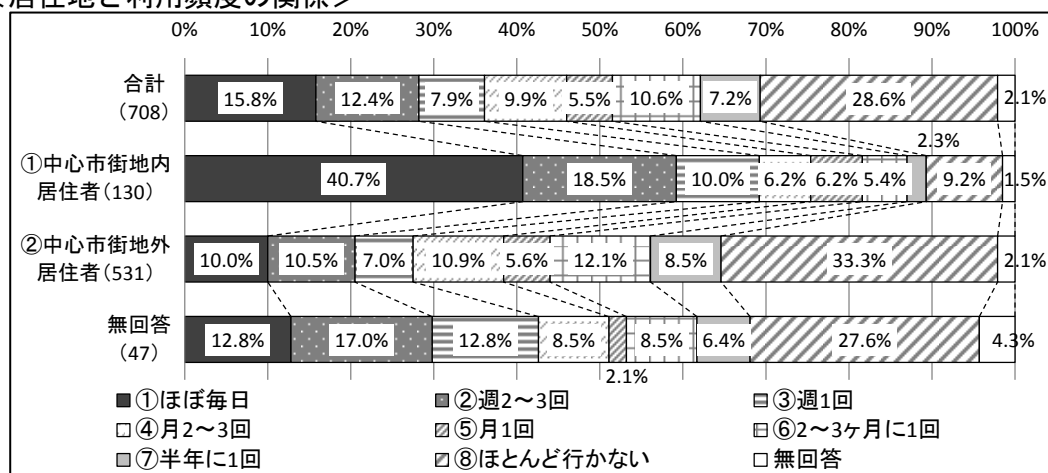


## <平成19年度と平成26年度の利用頻度の比較>



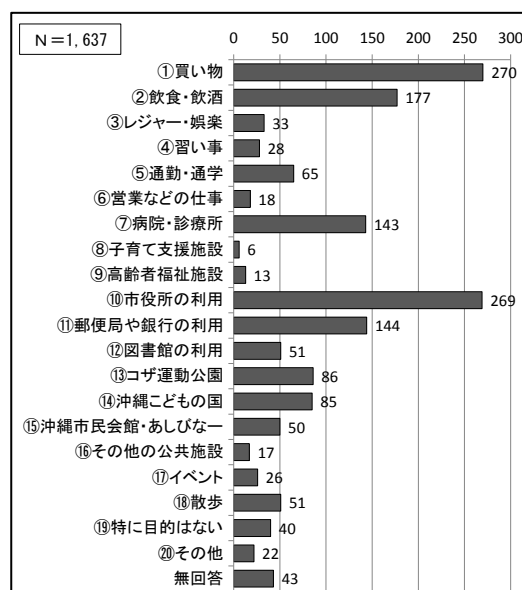
- ・居住地が中心市街地内外の利用頻度を比較すると、中心市街地内居住者の利用頻度は概ね高いが、中心市街地外居住者では利用頻度が低く、**利用頻度が減少した要因は、中心市街地外居住者の利用頻度の減少**によるものと考えられる。

## <居住地と利用頻度の関係>

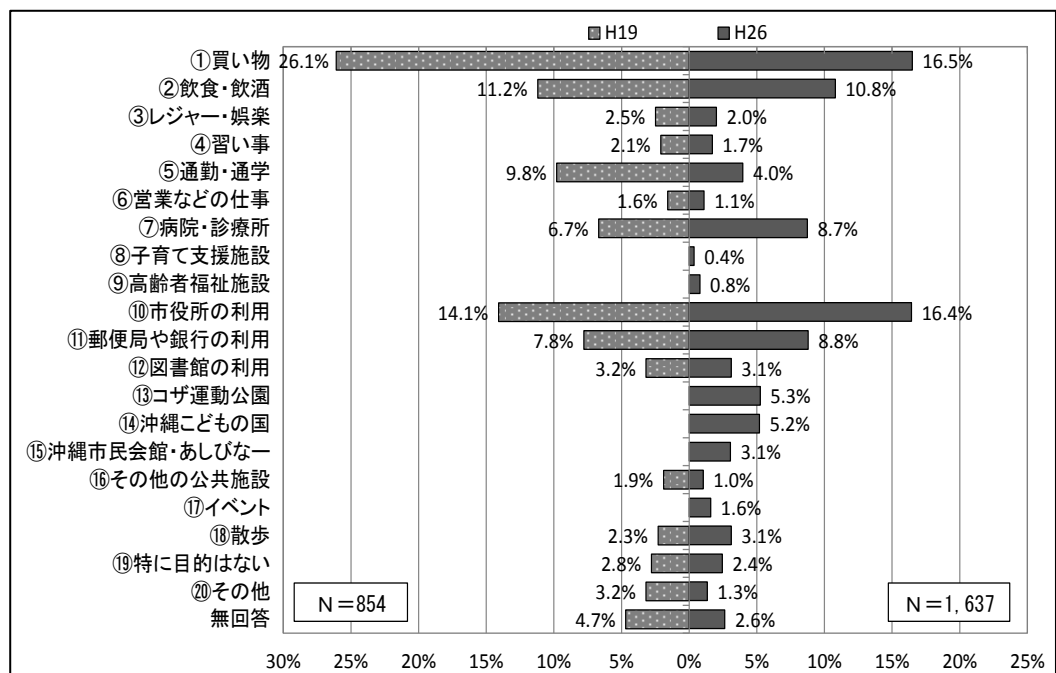


## 2) 利用目的

- ・「買い物」が270件で最も多く、次いで「市役所の利用」が269件、「飲食・飲酒」が177件の順となっている。
- ・「郵便局や銀行」、「病院・診療所」の他に、今回追加した「コザ運動公園」や「沖縄こどもの国」等も一定の回答があり、**商業機能に加えて多様な都市機能の拡充が図られたことで、中心市街地の利用目的が拡大**していることが予想される。
- ・平成19年度結果と比較すると、選択肢の追加等により、**相対的に「買い物」や「通勤・通学」の割合が減少**した。



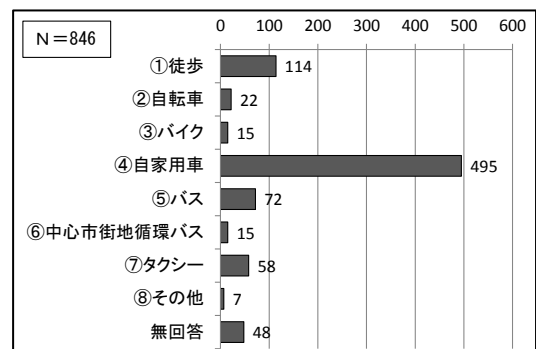
### <平成 19 年度と平成 26 年度の利用目的の比較>



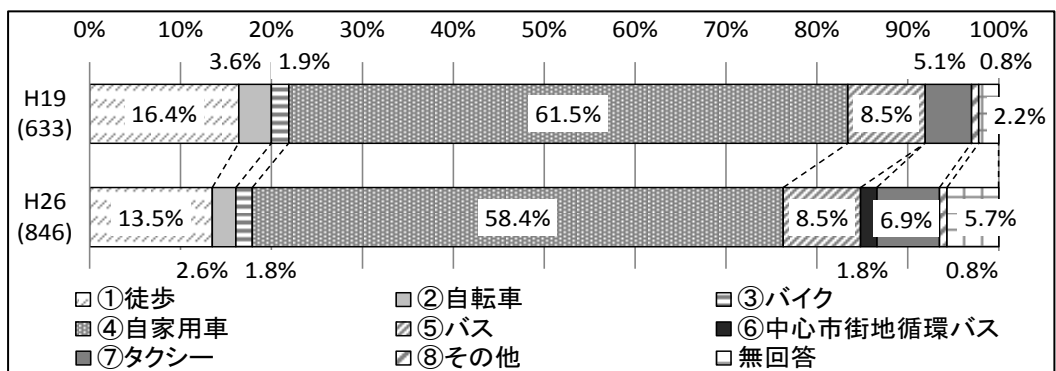
※⑧⑨⑬⑭⑮⑰は今回アンケートで追加した選択肢

### 3) 交通手段

- ・「自家用車」が 495 件で最も多く、次いで「徒歩」が 114 件、バスが 72 件で、中心市街地循環バスは 15 件であった。
- ・平成 19 年度結果と比較すると、**自家用車が最も多く、次いで徒歩の順は変わらないが、いずれも割合が減少した。**
- ・**中心市街地循環バスは 1.8%に留まった。**



### <平成 19 年度と平成 26 年度の交通手段の比較>



#### 4) 出かける回数・滞在時間の変化

##### ① 5年前と比較した出かける回数の変化

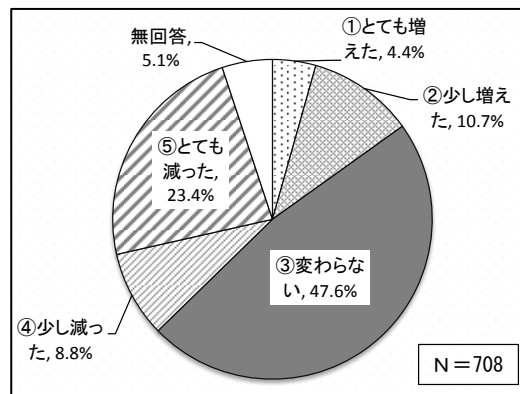
- ・「変わらない」が47.6%で最も多く、次いで「とても減った」が23.4%、「少し増えた」が10.7%の順となっている。

・少し増えた理由として、『レジャー・娯楽』や『こどもの国』等、他地域に無い出かける必要のある場所等があげられている。

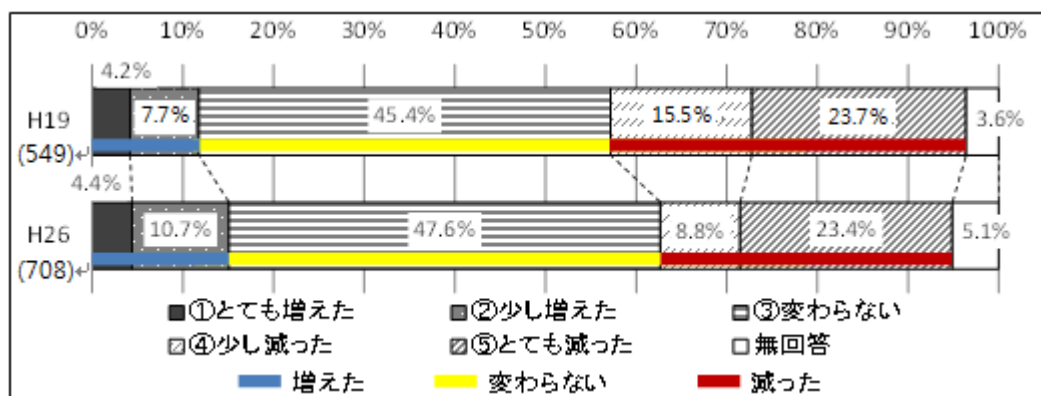
一方、変わらない及び減った理由として、『魅力がない』・『行きたい店舗等がない』といった中心市街地の内的な魅力の問題と、『近所で用事を済ませられる』・『郊外店等を利用する』といった周辺環境の魅力向上により相対的な魅力が低下した外的な問題があげられている。

また、『駐車場の不足』も多くの回答があげられている。

・平成19年度結果と比較すると、『減った』割合は39.2%から32.2%に7.0ポイント減少し、『増えた』割合は11.9%から15.1%に3.2ポイント増加し、わずかながら増加傾向が見受けられる。



#### <平成19年度と平成26年度の出かける回数の変化の比較>

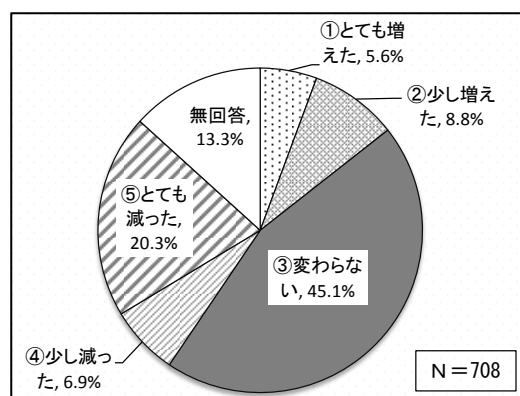


##### ② 5年前と比較した出かける滞在時間の変化

- ・「変わらない」が45.1%で最も多く、次いで「とても減った」が20.3%、「少し増えた」が8.8%の順となっている。

・出かける回数と同様の傾向で、変わらない理由として、『あまり中心市街地に行かない』・『目的・用事を済ませると帰宅する』等があげられている。

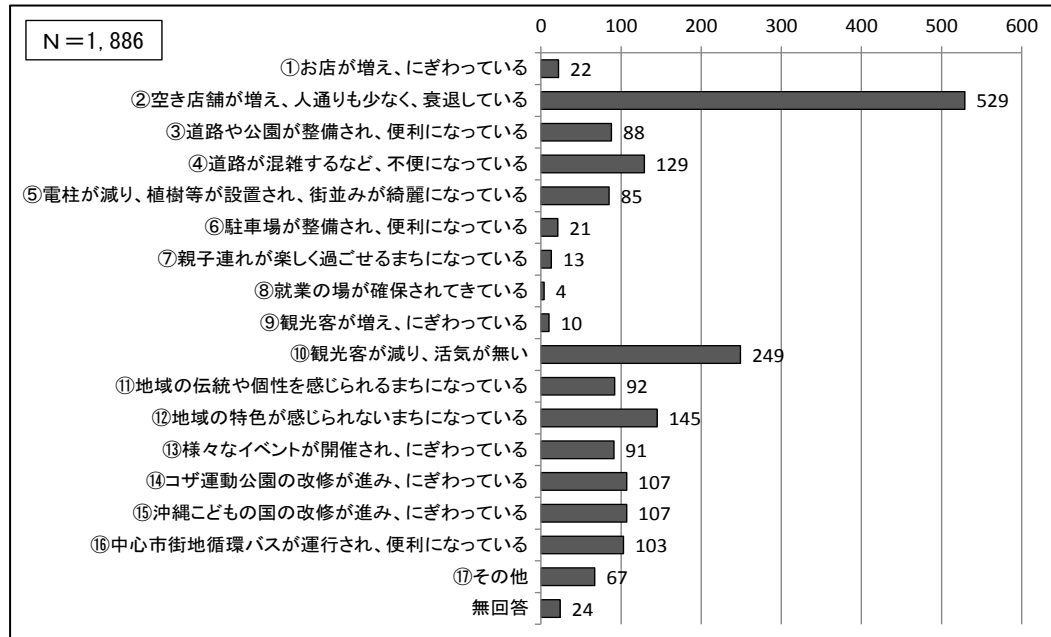
また、減った理由として、『魅力がない』・『行きたい店舗等がない』の他、『長く滞在する店舗・施設等がない』等があげられている。



## 5) まちの現状

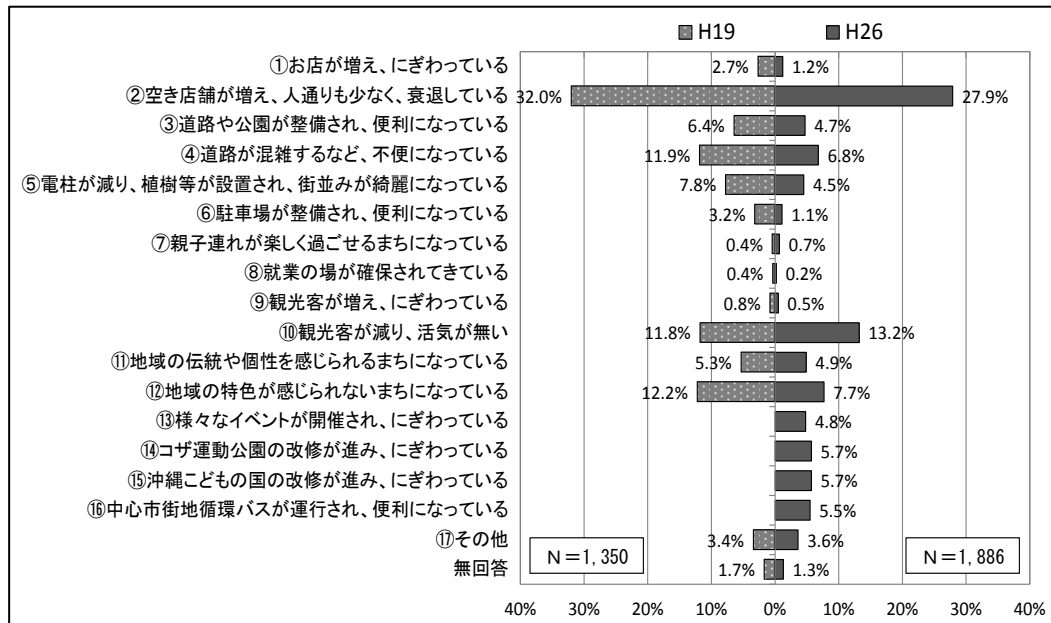
- ・ 良い印象が 743 件、悪い印象が 1,052 件となっている。
- ・ 『空き店舗が増えて人通りが少ない』印象が 529 件で最も多く、次いで『観光客が減って活気がない』印象が 249 件、『地域の特色を感じられない』印象が 145 件の順となっている。
- ・ 追加した コザ運動公園や沖縄こどもの国等が賑わいの印象に結びついている他、中心市街地循環バスにより利便性が向上した印象も一定の回答があった。

### <現在のまちの印象>



- ・ 平成 19 年度結果と比較すると、『空き店舗が増えて人通りが少ない』印象はいずれも最も多い。
- ・ 『道路の混雑』な印象は 11.9%から 6.8%に、『地域の特色を感じられない』印象は 12.2%から 7.7%に減少し、現計画の取組による改善傾向が現れたと考えられる。
- ・ 『親子連れが楽しい』及び『就業の場の確保』の印象は、前回とともに割合が少ない状況であり、まちの印象を改善する取組の強化が必要と考えられる。

## <平成 19 年度と平成 26 年度のまちの印象の比較>

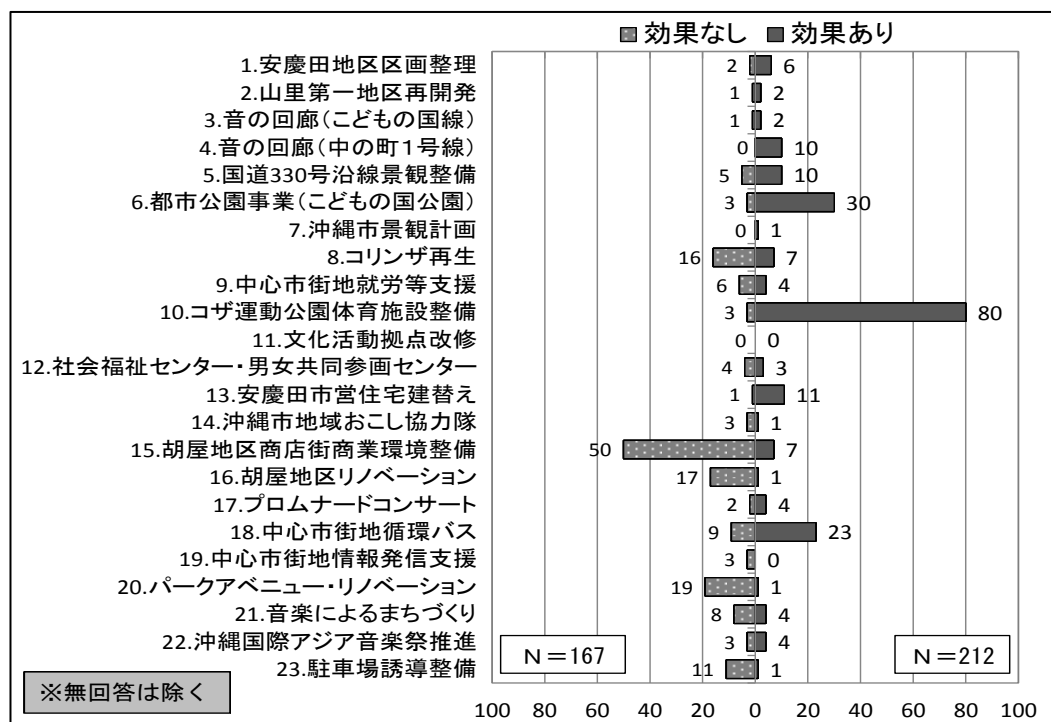


※⑬⑭⑮⑯は今回アンケートで追加した選択肢

## 6) 個別事業の評価（効果があった事業/効果がなかった事業）

- ・効果があった事業は、「コザ運動公園」が 80 件で最も多く、次いで「都市公園事業」が 30 件、「中心市街地循環バス」が 23 件の順で、**市民の目に触れる機会が多い都市機能に関する事業は市民が効果を実感している**傾向が見受けられる。
- ・効果がなかった事業は、「胡屋地区商店街商業環境整備」が 50 件で最も多く、次いで「パークアベニュー・リノベーション」が 19 件、「胡屋地区リノベーション」が 17 件の順で、**商店街で実施された事業について、市民が効果を実感していない**傾向が見受けられる。

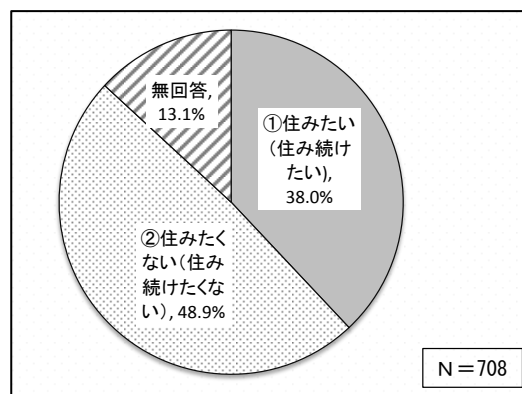
## <効果があった事業/効果がなかった事業>



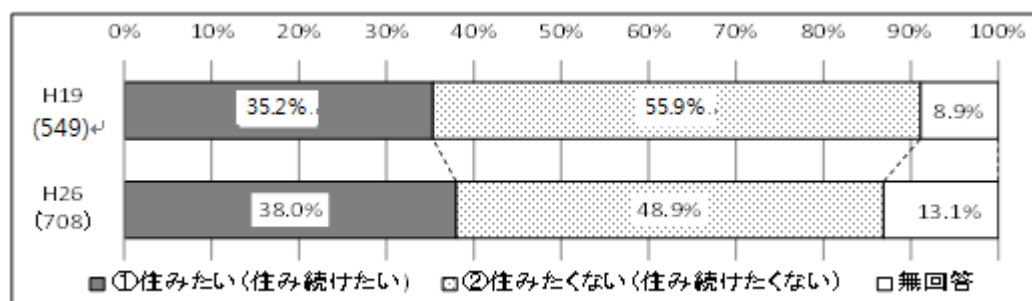
## 7) 今後の取組

### ①中心市街地への居留意向

- ・ 住みたくない（住み続けたくない）が48.9%、住みたい（住み続けたい）が38.0%であった。
- ・ 平成19年度結果と比較すると、「住みたい（住み続けたい）」が35.2%から38.0%に若干増加し、「住みたくない（住み続けたくない）」が55.9%から48.9%に減少している。



### <平成19年度と平成26年度の居留意識の比較>



### ②中心市街地に住みたくない・住み続けたくない理由

- ・ 住みたくない・住み続けたくない理由は、『防犯上の不安』が126件で最も多く、次いで『住宅の駐車場不足』が119件、『買い物をする場所の不足』が114件の順となっている。
- ・ 『建築物の段差』、『病院・診療所等の不足』・『既存コミュニティに入り込む』・『身近な公園等の不足』等は回答が少なかった。
- ・ その他の具体的な内容として、「今住んでいる場所が良い」等があげられている。
- ・ 中心市街地への居留意向を高めるためには、防犯対策、居住用の駐車場や買い物場所の確保など、郊外よりも魅力的な住環境整備が市民から求められている。

### <中心市街地に住みたくない・住み続けたくない理由>

